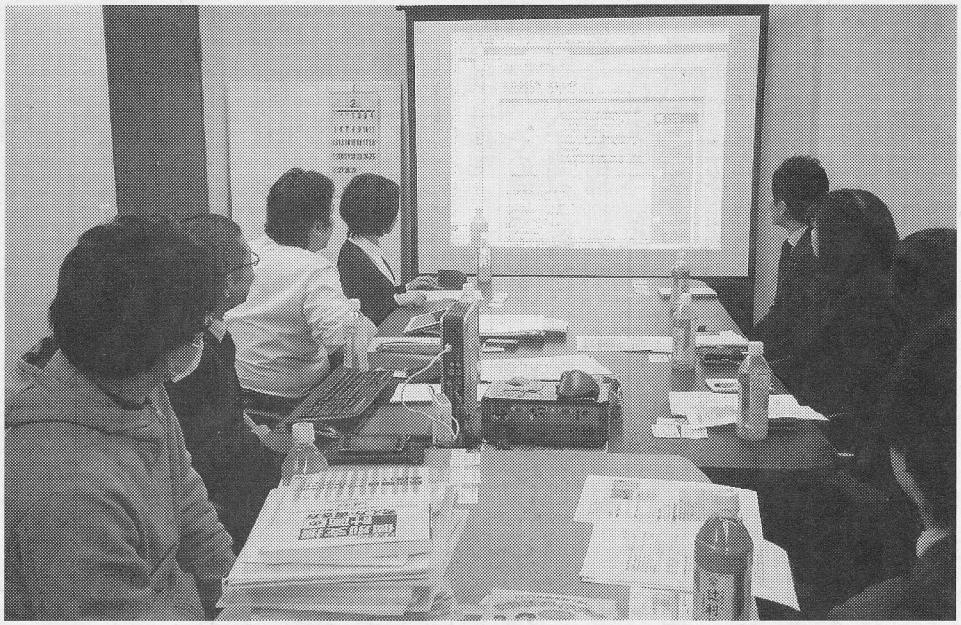

課題と解決方法を共有する勉強会の参加者ら

ネットで福祉施設支援

情報共有を促進

中小企業トピックス

奥進システム

（大阪市中央区鎧屋町２の２の４）

奥脇 学社長

インターネットを使ったシステム開発を手掛ける「奥進システム」は障害者支援などを行う社会福祉施設をサポートするシステムの開発・普及を進めている。

障害者支援施設の在所者数の増加に職員数が追い付かず、福祉の現場で人手不足が深刻化する中、「（職員が）事務作業に忙殺されるのではなく、人との触れ合いに時間を費やしてほしい」（奥脇学社長）との思いで、開発に取り組んできた。

同社は福祉施設の課題解決の方法を探ったり、共有したりする場として、障害の当事者や保護者、支援者らとともに勉強会を重ね、活動内容をフェイスブックで公開している。

例えば、福祉施設がサービスを提供するために必要な書類の作成は、利用者によって作成期限が異なる。期限に気付かずに利用者が不利益を受ける可能性がある。また、利用者が家や他の施設で過ごしている際の様子は把握が困難で、同じ施設の職員でも利用者情報の精度に差がある。

同システムでは、トップ画面に手続きの期限が近づいている利用者の情報を表示することで期限対策を実施。システム管理によって利用者情報を職員間で共有し、家族と施設の間でも共有可能とした。

同社が以前に開発した障害のある人のための「サポートブック」をインターネット上で作成・共有できるサービス「うぇぶサポ」の機能を向上。家庭と施設の双方で、利用者の様子や障害の症状が変化しても対応できるようにするのが狙いだ。

福祉施設のサポートシステムは現在、4施設で運用されており、新たに訪問介護向けのスケジュール管理システムも開発中だ。

（木下功）